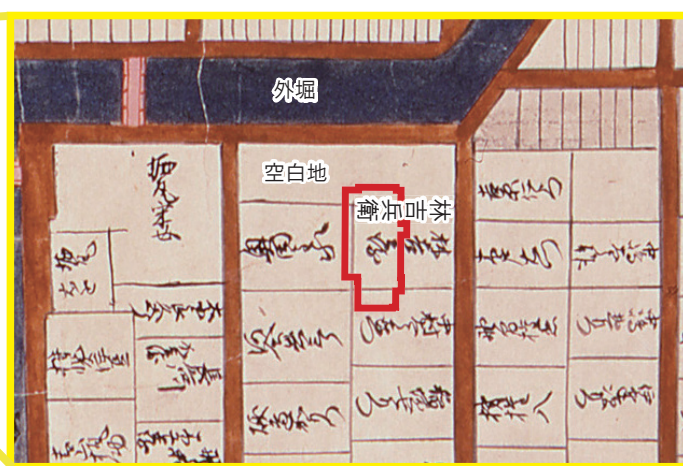
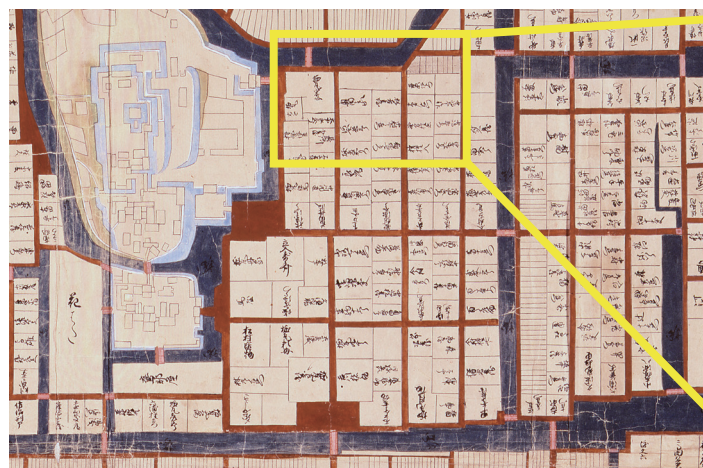


発掘された堀尾家臣の屋敷 —「林吉兵衛」の生活道具—

松江城下町は、17世紀初頭に堀尾氏によって整備された近世都市です。近年の開発に伴う発掘調査により、城下町の形成過程や人々のくらしの様子が明らかになりつつあります。令和2年度には、松江歴史館から東へ約150mの母衣町地内で、法務局建て替え工事に伴う発掘調査を実施しました。ここは、城下町の絵図によると堀尾家臣である「林吉兵衛」の屋敷地とされている箇所です。調査の結果、堀尾期～松平期にわたる各時期の遺構や、これに伴う遺物が数多く出土しました。

今回の展示では、林吉兵衛の屋敷地から出土した生活道具を紹介します。

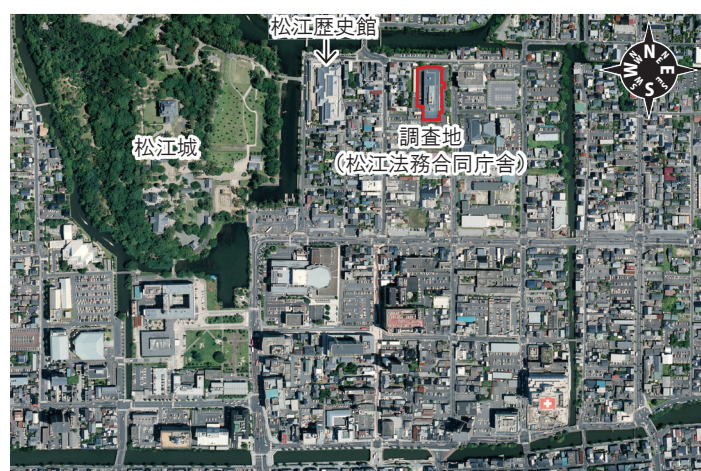
城下町絵図からみる調査箇所



堀尾期松江城下町絵図（島根大学附属図書館所蔵）

調査地推定箇所（赤枠）

絵図作成年代：元和6（1620）年～寛永10（1633）年
※橋北地区（大橋川から北の地区）を一部抜粋



調査地周辺の航空写真

調査地全景（北東から）

（2011年撮影：島根県松江県土整備事務所）

林吉兵衛の屋敷地から出土した木簡

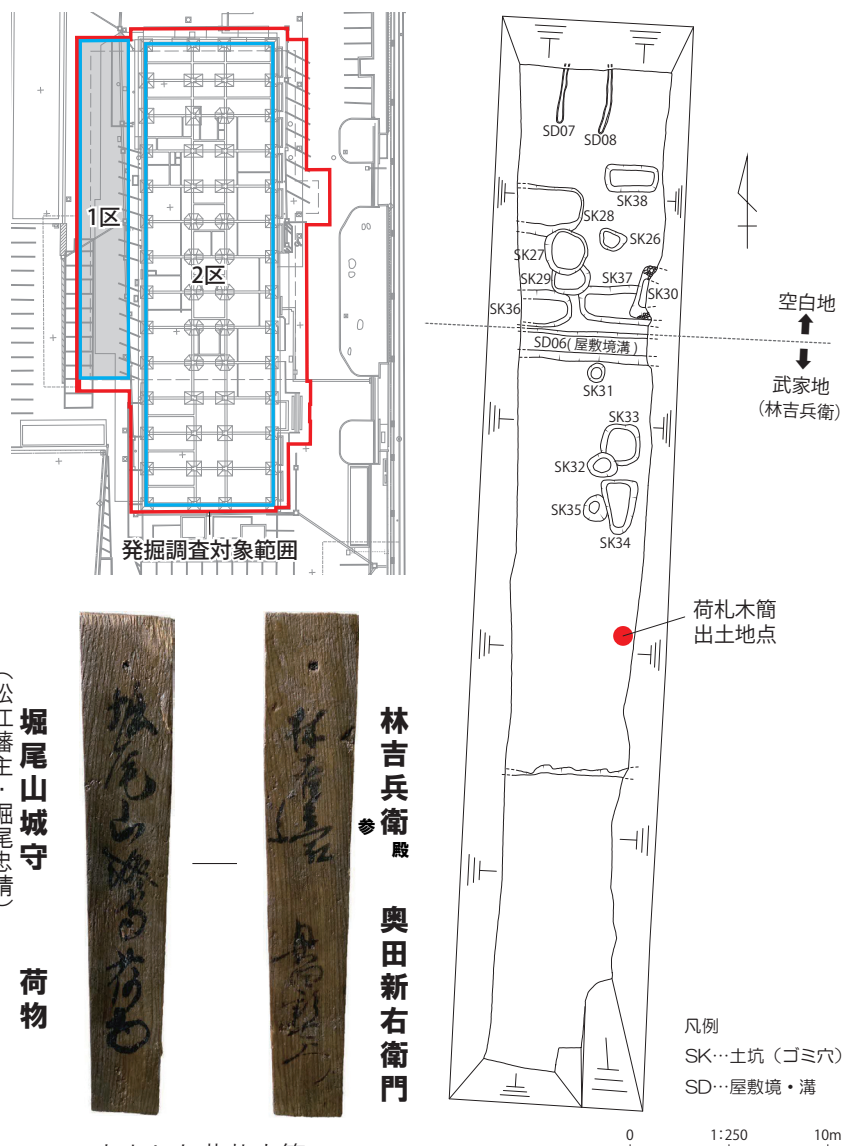
木簡^{もっかん}とは、墨で文字が書かれた木製の板のことです。荷物につけられた木簡を「荷札木簡^{にふだ}」といい、届け先と送り主を書きます。薄い木の板でできているため地中で腐^{くさ}ってなくなってしまうことが多く、完形^{かんけい}の状態^{かんけい}で出土するのはめずらしいです。

墨書^{ぼくしょ}の内容

この木簡は、「奥田新右衛門」から「林吉兵衛」へ届けられた荷物につけられていたものです。林吉兵衛という名は堀尾期松江城下町絵図に書かれている屋敷地^{おくだしんえもん}の人名と一致^{いっち}しており、絵図のとおりこの地に住んでいたことが分かりました。

また、松江城下町遺跡での「堀尾山城守」と墨書された木簡は今回初めて発見されました。

残念ながら荷物の中身は分かりませんが、17世紀初頭～前半の堀尾家臣^{かしん こうゆうかんけい}の交友関係を垣間^{かいま}見ることができる貴重な資料です。



出土した荷札木簡

形態：短冊型^{たんざくがた}

寸法：長さ 20cm、幅 3～4cm、厚さ 6mm

1区 17世紀初頭～前半
(堀尾期) 遺構平面図



荷札木簡出土状況（北から）



林吉兵衛の屋敷地から出土した
17世紀初頭～前半の陶磁器

お問い合わせ先

〒690-8540 松江市末次町86番地

松江市役所 文化スポーツ部 埋蔵文化財調査課

TEL：0852-55-5284 FAX：0852-55-5571